

## 刊行にあたって

本書は、中国美術史の権威たちが執筆陣に名を連ねた『中国美術史』全4巻(中国人民大学出版社 2014年)の日本語版である。中国では、長い歴史と広大な大地の中で多様な造形が生まれ、世界に類を見ない豊かで独特な美術を形成していった。それらは高い技術力や深い精神性に裏打ちされており、今日でも見る者を魅了してやまない。本書では、そうした中国美術の先史時代から清代までの展開について、時代性や社会思想などに関連させながら、数多くの図版を用いて網羅的に解説している。

また本書は、一般の読者と専門家の双方を対象としているため、学術的なレベルを維持しながら、専門的な見解を平易な文章の中に織り交ぜ、一般の読者でも奥深い中国美術の展開とその本質を理解できるよう考慮されている。

すでに2016年にケンブリッジ大学出版局から本書の英語版が出版されており、それに続いてこのたび日本語版が出版される運びとなった。最新の研究成果をふんだんに盛り込んだ本書が、中国美術に関心のある多くの人々にとって有益な書籍となり、これを機に日本において中国美術の理解が深まることを期待したい。

帝塚山学院大学教授 古田真一



【前頁】

東王公・楽舞・庖厨・車馬出行画像石 後漢 山東省石刻芸術博物館

【左上から】

彩陶人頭瓶 仰韶文化 甘肅省博物館  
四羊方尊 殷 中国国家博物館  
人物御龍図帛画 戦国 湖南省博物館  
散氏盤(矢人盤)銘(拓本) 西周 台北・故宮博物院  
跪射武士俑 秦 秦始皇兵馬俑博物館

(第1巻より)

# 目次

## 〈第1巻〉先史・殷・周・秦・漢

### 総論

#### 第一章 新石器時代の 陶器・玉石器・岩画

- 第1節 仰韶文化の彩陶
- 第2節 大汶口・龍山文化の土器
- 第3節 陶塑と石彫
- 第4節 良渚文化の玉器
- 第5節 岩画・地画・蚌塑

#### 第二章 夏・殷・周の青銅器

- 第1節 中国青銅器の特徴とその発展
- 第2節 青銅器の種類と文様
- 第3節 青銅器の造形

#### 第三章 殷・周時代の彫刻と絵画

- 第1節 広漢三星堆青銅人像
- 第2節 青銅器における人物と動物の彫刻
- 第3節 青銅鳥獸尊
- 第4節 玉石・牙骨・漆木彫刻

#### 第四章 戦国から漢代の絵画・染織・書

- 第1節 青銅器の銘刻図画
- 第2節 帛画と染織
- 第3節 漆画
- 第4節 宮殿・墓室壁画
- 第5節 書

#### 第五章 秦・漢時代の建築と彫刻

- 第1節 秦・漢時代の建築
- 第2節 秦・漢時代の彫刻
- 第3節 古滇族と北方遊牧民族の美術

## 〈第2巻〉三国・南北朝・隋・唐

### 総論

#### 第一章 建築と工芸

- 第1節 都城の建設と宮室園林
- 第2節 寺院と仏塔
- 第3節 陶磁器
- 第4節 漆工芸
- 第5節 金属工芸
- 第6節 染織

#### 第二章 彫刻

- 第1節 陵墓彫刻と俑
- 第2節 戴逵・僧祐、および隋唐の彫刻家
- 第3節 石窟造像
- 第4節 彩色塑像
- 第5節 金銅仏
- 第6節 石彫像

#### 第三章 絵画

- 第1節 絵画の発展
- 第2節 顧愷之と陸探微、張僧繇と楊子華
- 第3節 展子虔と李思訓、閻立本と尉遲乙僧
- 第4節 吳道子と韓幹、張萱と周昉
- 第5節 墓室壁画

#### 第6節 石窟壁画

#### 第四章 書と書画論

- 第1節 碑刻・簡牘・写経
- 第2節 魏晋南北朝の書家と二王
- 第3節 欧陽詢・虞世南・褚遂良・薛稷
- 第4節 孫過庭・張旭・懷素
- 第5節 顔真卿と柳公権
- 第6節 書品と画品

## 〈第3巻〉五代・宋・元

#### 第一章 概説

- 第1節 美術の発展とその政治的背景
- 第2節 美術の発展とその経済的、および文化的環境
- 第3節 美術の展開における一般的特徴

#### 第二章 建築・彫刻・壁画

- 第1節 建築・彫刻・壁画の展開
- 第2節 都城・宮殿・庭園
- 第3節 寺観・祠廟・仏塔
- 第4節 住宅・俑・墓室壁画
- 第5節 建築家・彫刻家と著述

#### 第三章 絵画と書

- 第1節 絵画と書の展開
- 第2節 五代・宋の山水画
- 第3節 遼・金・元の山水画
- 第4節 花鳥画
- 第5節 人物画
- 第6節 五代・宋の書
- 第7節 遼・金・元の書
- 第8節 書画論の発展

#### 第四章 工芸

- 第1節 生産体制と様式の変遷
- 第2節 五代・宋の陶磁器
- 第3節 遼・金・元の陶磁器
- 第4節 染織
- 第5節 金属器・漆器・玉器

## 〈第4巻〉明・清

### 総論

#### 第一章 明・清時代の建築

- 第1節 紫禁城
- 第2節 天壇と陵寢
- 第3節 寺廟と民居
- 第4節 庭園

#### 第二章 宮廷絵画

- 第1節 明代の宮廷絵画
- 第2節 清代の宮廷絵画

#### 第三章 職業画家と文人画家

- 第1節 戴進・呉偉と浙派
- 第2節 沈周・文徵明と呉派
- 第3節 唐寅と仇英
- 第4節 「白陽」「青藤」の写意花鳥画

#### 第5節 「南陳北崔」と曾鯨の人物肖像画

#### 第四章 董其昌と松江派

- 第1節 呉門の衰退と松江の勃興
- 第2節 董其昌とその芸術
- 第3節 董其昌の南北宗論

#### 第五章 清初の画壇と「四王」「四僧」

- 第1節 清初の金陵・皖浙画壇
- 第2節 「四僧」の絵画
- 第3節 「清初六大家」の絵画

#### 第六章 揚州画壇と「揚州八怪」

- 第1節 清代中期の揚州画派
- 第2節 「揚州八怪」
- 第3節 華嵒とその他の揚州画家

#### 第七章 清末の上海画壇

- 第1節 虚谷とその芸術
- 第2節 海上三任
- 第3節 呉友如と新聞『点石齋画報』
- 第4節 錢慧安と上海の画会
- 第5節 呉昌碩とその芸術

#### 第八章 明・清時代の版画芸術

- 第1節 明・清時代の宮廷版画
- 第2節 民間版画と小説等の挿絵
- 第3節 画譜と箋譜
- 第4節 民間の木版年画
- 第5節 文人画家と挿絵版画

#### 第九章 書

- 第1節 明代の書
- 第2節 清代の書

#### 第十章 明・清時代の彫刻

- 第1節 寺観彫刻
- 第2節 陵墓石彫と俑
- 第3節 金銅仏
- 第4節 工芸家

#### 第十一章 明・清時代の工芸(上)

- 第1節 明・清時代の工芸の概要
- 第2節 景德鎮
- 第3節 青花磁器
- 第4節 彩絵磁器
- 第5節 色釉磁器
- 第6節 地方の名窯

#### 第十二章 明・清時代の工芸(下)

- 第1節 玉器
- 第2節 漆器
- 第3節 珐瑯
- 第4節 家具